

委員会活動報告 先進地などへ視察調査

総務常任委員会

若者議会について

10月18日 愛知県新城市^{しんしろ}

新城市では、26年度から若者政策に取り組み始め、高校生や大学生を交えたワークショップ「若者政策ワーキング」を経て、全国初となる「新城市若者条例」と「新城市若者議会条例」を制定しました。

27年度には、若者の力を生かすまちづくり政策を検討することを目的に、若者議会が設置されました。

若者議会は、市内の若者が市長の諮問に応じ、若者総合政策の策定と実施に関する事項を調査審議し、その結果を市長に答申する組織です。委員は、16歳から29歳ごろまでの市内在住・在学・在勤の20名の若者で、報酬も支払われています。

若者議会には、毎年1,000万円の予算が与えられ、企画・立案した事業は市長に答申し、市議会の承認を経た上で、市の事業として実際に実施されています。

具体的には、図書館リノベーション事業、若者防災意識向上事業、いきいき健康づくり事業など多岐にわたっています。どれも若者らしい感性を生かした事業が多く、まちづくりに新しい視点を取り入れられていると感じました。

近年は、若者の政治離れや投票率の低下が問題とされています。こうした取組を進めることで、少しでも政治やまちづくりに関心を持ってもらえればと考えます。当市でも、現在、大学との連携により地域活性化事業などを行っていますが、若者と地域住民、市が連携し、活力のあるまちづくりを進めていく必要があると考えます。



産業建設常任委員会

貸農園について

10月30日 久喜市

久喜市では、都市住民が農に親しみ、農に対する理解を深めることを目的に、4園の市民農園を開設しています。今回、「しみん農園久喜」と「しみん農園菖蒲」の2園を視察しました。

久喜市の市民農園では、農園内に井戸や東屋、ベンチ、管理棟が設置され、また、料理実習室や加工室、バーベキュー施設なども整備されています。さらに、区画数も当市より多く、駐車場も広く確保され、農機具も充実しており、利用者への配慮がうかがえました。

当市でも、市民農園を1か所(60区画)開園し、市内在住・在勤のかたに限りご利用いただいています。今後も徐々に市民農園を増園

しながら、利用者枠を県内都市部のかたや東京都民にも拡大していき、農業による交流人口の増加を期待するものです。

市民農園の普及は、耕作者の減少している日本の農業の救世主とも考えられます。後継者不足などによる農地の荒廃を食い止めることを考えないといけない状況であります。今後、市民農園の普及、利用者のさらなる拡大に向けて、当市も一層力を入れていただくよう期待します。

